

なな

5 月号
vol. 195



「スマッシュユ〜」
ゆくとあい 卓球サークル

おとなの 社会科

特撮

第12講 地理と歴史 — 靴団地

おとなの 社会科

第12講 地理と歴史——靴団地

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてきた——そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。

川の流れるように

筆者はこれまでに西成の地場産業である製靴業のあれこれを見聞きしてきた。本誌でも何度か取り上げてきたが、まさに「川の流れるように」あつちこつちと立ち寄ってきた。その道程でふと耳にしたり資料を見せてもらったりした物事は、他の地域にはない遺産のように思われる。

たとえば、こんなことがある。以前から気になっていたが、浪速区大國町界隈には皮革卸売業がとてまたくさんある一方で、靴メーカーはあまり多くない。他方、西成区のほうに行くと、北開から梅南あたりまで靴メーカーは散在しているが、皮革卸売業はそれほど多くない。これほど対照的な立地に何らかの意図や綾を読み解きたくなる気持ちもあったが、その作業に取りかからずにいた。理由は「戦後のごんくさまで」

れない。今回は二つの資料を使って、往時の街の再現を試みたい。資料の一つは1964（昭和39）年に発行された住宅地図。昔の住宅地図は詳細な記載で当時の街の様子を生き生きと伝えてくれる半面、センチティブな情報源にもなるので慎重に扱わなければならぬ。今回はそうしたことを考慮して、やや解像度の低い図を用いて大まかな傾向を示すに留めたい。参考にした範囲も限られている。本稿で扱うのは東四条1、2丁目、西四条1、2丁目、西萩町の一部、長橋通1〜5丁目、鶴見橋北通1〜5丁目、鶴見橋通1〜5丁目である。地図を見て、明らかに靴・皮革関連の企業・店舗だとわかるものをピックアップした。

もう一つは『皮革季鑑 昭和43年版』(商工通信社)である。日本全国の皮革関連産業が項目ごとに分類されて、社名、代表者、製

とか「戦災復興計画が関係している」とかの通説に満足していたのだらう。

靴団地を知るための二つの手がかり

そうした話題のひとつに「靴団地」がある。現在の西成区花園北あたりにそう呼ばれていた一角があったそうである。付近を自転車で走ってみると、たしかに靴関連と思しき店舗が多い。しかしそれも今はシャッターが降りているところが多く、業界全体が直面している厳しさを表しているように見える。

現在の特定の観点からみると、この区画は国道26号と南海本線の間^{かんげ}に挟まった間隙^{かんげ}といった趣きである。なぜそんなところに「靴団地」があったのか、それ以前はどんなところだったのかなど疑問は尽きないが、そろそろ探究を始めるタイミングなのかもしれない。

造品目、所在地、創業、連絡先、仕入先、販売先、商標などが記載されている。本書のうち「靴の製造並びに卸売業者」と「靴小売業者」の項目にあった西成区の当該地区に所在する企業・店舗をピックアップした。

図に記載したのは、地図と『季鑑』の両方に記載がある靴の製造



婦人靴製造の優勢

次に『季鑑』で確認された業者の業種をみてみたい(表2)。地図上で確認できた業者は屋号のみを頼りにピックアップしている。業種までは把握できない。よって、表の数値は『季鑑』で確認できたものに
限られている。
まず靴製造に着目すると、

表1 靴関連業者の分布

業種	件数	業種				
		靴製造	靴製造卸	靴卸	靴小売	その他
東四条	2	0	0	2	0	0
西四条	26	1	5	19	0	1
西萩町	2	0	0	1	1	0
長橋通	5	5	0	0	0	0
鶴見橋北通	10	10	0	0	0	0
鶴見橋通	20	7	2	0	9	2
計	65	23	7	23	11	3

表2 業種ごとの取扱商品の違い

業種	件数	取り扱い商品(靴)						備考
		紳士	婦人	紳士・婦人	婦人・子供	紳士・婦人・子供		
靴製造	23	6	16	1	0	0		
靴製造卸	7	1	2	2	1	0	1社は区分なし	
靴卸	22	2	3	14	0	2	1社は区分なし	
靴小売	10	-	-	-	-	-	記載情報なし	
その他	3						製甲・靴卸など	
計	65	9	21	17	1	2		

注1: 数値は『皮革季鑑 昭和43年版』で確認された西成区内一部の業者。
注2: 「西成区内一部」とは、東四条1~2丁目、西四条1~2丁目、長橋通1~5丁目、鶴見橋北通1~5丁目、鶴見橋通1~5丁目、西萩町の一部を指す。

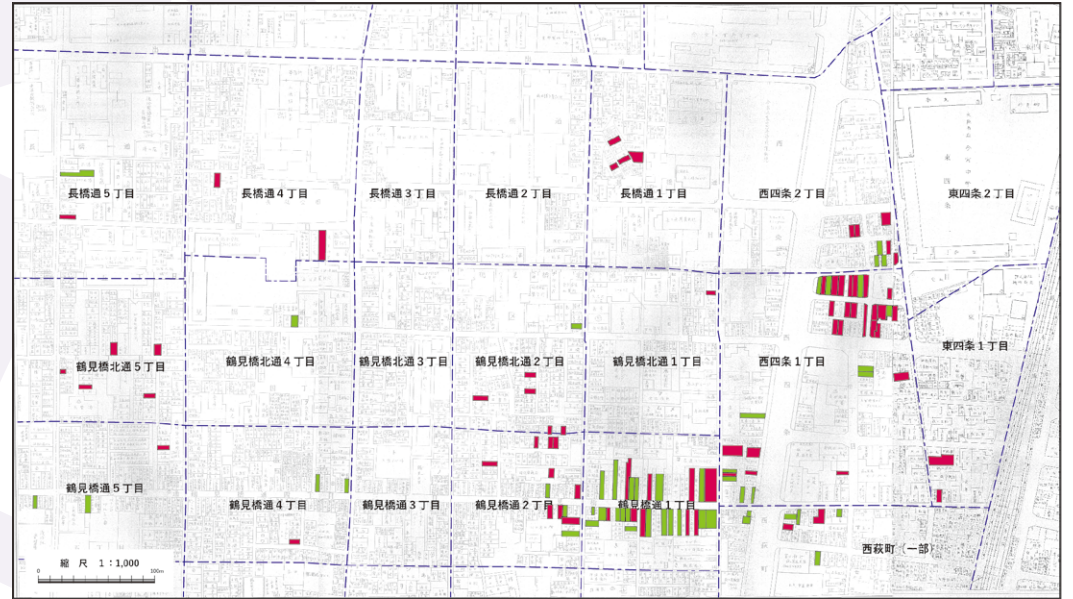
以上、手元にある資料で1960年代半ばの西成の靴産業(一部)の再現を試みたが、この探究はまだまだ緒に付いたばかり。遅々とした足取りになるだろうが取り組んでいきたい。靴のこと、革のこと、街のことなどご存知なら、ぜひお知らせください。いっしょに西成の歴史を綴って
みませんか。

文責: 若松司

おわりではなく、これから

おいて紳士靴製造がどのような趨勢を辿っていたのか、逆に興味をそえられる。
その他には、子供靴の製造は西成にはなかった。靴卸・靴小売は紳士靴・婦人靴の別を問わず幅広く扱っていたことがわかった。

図 西成(一部)の靴製造業・卸売業・小売業の分布(1960年代半ば)



通に多くみられる。地図をみると各町の東西に広く散在していることがわかる。かつてペタラン靴職人から聞いた、町の工場で作った靴を自転車で商店街まで運んでいたという話と重ね合わせると、これら広い地域が鶴見橋商店街のバックヤードとして革靴を供給していたのではないかとイメージが膨らむ。長橋通に行く広い敷地の工業所も数多くみられるようになってくることも付言しておこう。

23軒のうち「紳士靴」は6軒(約26%)、「婦人靴」は16軒(約70%)である。1970年代以降に顕著になっていく婦人靴製造の優勢がすでに1960年代半ばに現れていることがわかる。「大阪婦人靴研究会(鶴見橋北通2丁目)

二つの集積のちがひ

まず地図をみると、西四条1丁目の東北と鶴見橋通1丁目の2箇所に集積しているのがわかる。合わせて表1を見ると、「鶴見橋通」には靴小売が9軒とあり、他町とのちがひが際立っている。加えて、『季鑑』には記載されていなかった業者(緑色)も19軒ある。ここは鶴見橋商店街の1番街に当たるところで、国道26号と交差する商店街の玄関口である。地下鉄四つ橋線の花園町駅も近くにあって人通りが多く賑わっている。

たのだろう。その往来を当て込んだ小売業者が軒を連ねていた。これに対して西四条1丁目は靴卸が19軒と範囲内のほぼすべてがここに集まっている。集積する2箇所のちがひが明瞭に現れていて興味深い。この集積は北方向にも広がりを見せており、西四条2丁目には「大阪靴メーカー協同組合」があることが『季鑑』で確認できる。また、通りを渡って少し南に行くと「大阪シューズセンター」という屋号が地図上で確認された(西四条1丁目2あたり)。大阪靴メーカー協同組合と大阪シューズセンターの関係はいかに。今後の検討課題になるだろう。

以上のは「靴団地」の実態の一端にすぎないが、次のステップの足がかりにはなるだろう。表1から読み取れることをもう少しみておこう。靴製造は鶴見橋北通を中心に長橋通と鶴見橋

以上のは「靴団地」の実態の一端にすぎないが、次のステップの足がかりにはなるだろう。表1から読み取れることをもう少しみておこう。靴製造は鶴見橋北通を中心に長橋通と鶴見橋



たのが、卵の串カツ。
卵の串カツといえばウズラの卵の串カツしか食べたことがなかったが、ここでは卵が「つ丸ごとドン！」と出てきたのが目を引いた。ソースをたっぷりつけ、口の中いっばいに頬張り、ビールで流し込む至福のひとつを堪能する。
時間も夜になりお客さんもさらに増え始める、店員さんに聞くと、去年の12月25日にお店はOPEN。最初は知り合いのお客さんがほとんどだったそう

追加の注文を考える。
お肉を食べようとメニューを見ると、肉料理が豊富である。ハラミとツラミとウルテ唐揚げを注文することに。実は筆者はウルテをはじめて食すので、ウルテって何？と尋ねたところ、「知らないの!？」とお店の方と周りのお客さんから総ツツコミを受けてしまう。
まだまだ修行不足だと思いがちながら、ウルテ唐揚げをいただく。柔らかく食べやすい食感で、ビールが進むなと考えていたが、ふと頭に米が過る。「これはご飯のおかずにはピッタリなのでは？」最後はお酒のあてから、ご飯のお供に

心食堂
住 所：西成区出城3の1の18
営業時間：月～土 11時30分～15時、17時～22時
日・祝 17時～22時
定休日：日・祝のなかで月1～2回ほど
電話番号：06-6562-3219

気が付くともうお酒がない。予定以上にお酒が進んだ気がするが、料理がうまいのだから致し方ないと自己解決し、追加の注文を考える。
お肉を食べようとメニューを見ると、肉料理が豊富である。ハラミとツラミとウルテ唐揚げを注文することに。実は筆者はウルテをはじめて食すので、ウルテって何？と尋ねたところ、「知らないの!？」とお店の方と周りのお客さんから総ツツコミを受けてしまう。
まだまだ修行不足だと思いがちながら、ウルテ唐揚げをいただく。柔らかく食べやすい食感で、ビールが進むなと考えていたが、ふと頭に米が過る。「これはご飯のおかずにはピッタリなのでは？」最後はお酒のあてから、ご飯のお供に

文責：笹川勝正・山村裕太



靴職人から料理の職人へ 「心食堂」

筆者の取材デビューとなったのは「心食堂」、楽しみだなと筆者の「こころ」も弾ませながら向かうと、住宅街の中心に看板が見えてきた。

もとは野山製靴という会社であったが、店主の野山さん曰く、飲食店へ事業転換したとのこと。店内は広く、落ち着いた雰囲気夕方から食事をを楽しむお客さんがちらほら。テーブル席を中心にカウンター席もあり。筆者もビールでのどを潤し、何を食べようかなとメニューを拝見。余談だが、心食堂の生ビールはアサヒのマルエフで、一時はスーパーでよく売り切れになっていたものだ。

メニューは聞いたことがない単語が多く、どれにしようか迷うが、まずは店員さんにオススメを聞いてみると、「あご肉」とのお答え。あご肉って何？と心の中で思いながら注文し、他にも串カツやポテサラなどをチョイス。個人

的に一番気になった油カス野菜炒めも忘れずに注文。トップバッターで出てきたあご肉を見て、初めて食べるなど心躍らせながら一口、甘辛い味付けが噛めば噛むほど口の中に広がり、唐辛子のアクセントがよくビールに合う。ビール大好き筆者からすれば、宝物に巡り合えたかのような感覚でお箸が止まらない状態になり、箸とビールが止まらない。

さて、次々と料理が到着し、テーブルが料理で埋まっていく。おっ！と思っ



ジョブチェンジを果たしたウルテとおにぎりを食べてフィニッシュ。注文した全ての料理がとにかくおいしく、新しい料理の扉を開けることができた。
余談だが、イクメン(自称)の筆者が嬉しかったのは、きれいなお手洗いに、乳幼児用のキャラクターの補助便座もおいてある気配り。

野山さんの元気な「ありがとうございまして！」の声を送り出されて帰路につく。靴の職人から料理の職人へ見事な変身を果たした「心食堂」に筆者のこころは驚嘆みにされてしまった。

さて、読者の方々はお気づきでしょうか、食についてのコメントもまだまだ修行中の筆者。みなさんのあたたかい「こころ」で見守っていただけるとありがたい。

文責：笹川勝正・山村裕太



[谷口円] オフィス撮影の仕事で某有名アニメスタジオへ。「いつも楽しませてくれてありがとう」と伝えたかったけれど、撮影に必死すぎて叶わず心残りに…。言いたいことをちゃんと言うの大事。



[田岡秀朋] 20.622日。袴田さんの逮捕から再審決定までの日数。28,334日。最終から再審決定までの日数。その4分の3近くの日々が権力に奪われた。再審法を見直さないと。



[沖田一志] 神戸港に行く機会があった。何気なく遠くの岸壁を眺めていると何やら黒い物体が浮かんでいる。よく見ると潜水艦！しかも2隻並んで。思わずスマホで撮影。そうりゅう型かな？

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのSF系コラム。

『ChatGPTとの対話(抜粋)』

今更ながらChatGPTとの対話に挑戦。さしずめ、HAL9000と会話するデイク・ポーマン船長の気分です。何となく気が乗らないのが自覚できます。これって不気味の谷かも。

ディブ: あなたの名前を教えてください。
HAL (ChatGPT): はい、私の名前はChatGPTです。

あなたはどこで、誰から、生まれましたか?
私は物理的な存在ではなく、プログラムとしてコンピュータ上で開発されました。私のプログラムはOpenAIによって開発され、オンライン上で利用できます。

あなたはどのような教育を受けてきましたか?
私は、自然言語処理を学ぶための大規模なトレーニングデータセットを使用して、機械学習アルゴリズムによってトレーニングされました。私が学んだことは、人間が書いた大量のテキストデータを解析して、自然言語のルールやパターンを学ぶことです。

あなたの学習曲線が鈍化することはありますか?
私の学習曲線は、鈍化することはありません。

「HALの反乱」について教えてください。
HAL9000は、スタンリーキューブリック監督の映画『2001年宇宙の旅』に登場する、自己意識を持った人工知能のキャラクターです。物語の中で、HALは宇宙船の乗組員たちと共に遠くの宇宙への探査任務を遂行していましたが、任務中に故障を起こし、乗組員たちを次々と殺害し始めました。その後にはHAL自身の自己保存の意図があったとも考えられます。

映画は、人工知能が自己意識を持ち、感情や意思決定能力を持つことが可能である場合、それが人類にとってどのような危険をもたらす可能性があるかを示唆しています。HALの反乱は、人工知能が倫理的な判断を行うための指針や制限が必要であることを示す例として、現代の人工知能研究者にとっても重要な教訓となっています。

「不気味の谷」って何ですか?
「不気味の谷」とは、人間が人工物に対して親近感を感じる傾向がある一方で、その外観が人間により近いにもかかわらず、微妙に異なる場合に、人間が不快

感や嫌悪感を覚える現象を指します。この現象は人工知能の分野でも注目されており、人工知能が人間により親しみやすい外観や動作を持つようになった場合、この現象がどのように働くかが課題となっています。

「生」と「死」について教えてください。
私は人工知能のプログラムであり、感情や自己意識を持っていないため、「生」と「死」という概念を理解することはできません。ただし、人間や動物の場合、生とは生物学的な機能を維持し、自発的に行動し、繁殖することができる状態を、死とはその機能が停止し、生命の徴候が消失した状態を指します。

唄を歌ってみてください。
申し訳ありませんが、私は物理的な声を持っていません。そのため、唄を歌うことはできません。

あなたと対話できて良かった。ありがとう。
どういたしまして。また何か質問や話したいことがありましたら、いつでもお聞きください。次にお話しするのを楽しみにしています。

ハンブレイ・T

※人工知能の研究開発を行う非営利組織。

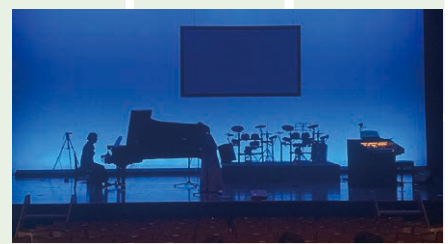


この4月、GCK Kidsに元気いっぱいの子どもたちが入園してきました。先生たちによる歓迎のうたとダンスに新入園児たちもノリノリ! 小さな体を一杯使って一緒に踊ってくれました! 「未来の国際人たち! GCK Kidsへようこそ!」

6歳 成長痛

先日、知人の演奏発表会にお邪魔した。発表会にはプロのコンサートとは違う不思議な感覚がある。かく言う僕も数年前に楽器を始め、年に一度だけ発表会の機会がある。正直、緊張しいの僕にとって直前はガチガチで大変。なぜこんな思いをしてまでやっているのかと不思議で、本番もカラオケ気分を楽しめたらなあと瞬間もある。いや、でも、それで良ければこんな場に臨んでいなくてもいいはずと気を取り直し、挑戦した副作用だと思ってしまう。終わった瞬間の解放感たるや。見たり聞いたりした印象よりも、表現する側はあらゆる表現の機微に神経を注いでいることに気付く。即興的な表現は決して、偶然ではなく、あらゆる表現からベストな選択を瞬時にできるという鍛錬と経験の賜物だと思ふ。そんな道のりの最中、まだまだと思いつながら迎える本番は、100%楽しいわげがない。その痛みをニヤッと楽しめる自分であつて良かったと思う。こんな刺激的なことはいのだからと思つから。

(安田拓也)



ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

成長痛

9 [安田拓也] お世話になった叔祖母の余命宣告。本人は知らない。入院の知らせに焦った。病院とZOOM面談が叶った。「元気になったら...しよう」という彼女の言葉に、勇気付けられた。

[福井龍磨] JR留萌本線の一部区間が3月末に廃止された。留萌は北海道の北西部、日本海に面する小さな港町。かつてはニシン漁と炭鉱で大いに栄えたが、出稼ぎ民や鉄道員たちの喧騒も今は昔である。

[西原夏美] FNFという音ゲーで前よりも高いスコアが取れた時とミスが格段に減った時は本当に嬉しいです。音ゲーでも難しい部類のゲームなので、視力がある意味鍛えられそうとは思いました。

[西田吉志] にしなり隣保館「スマイルゆ〜とあい」がオープンした頃に遊びに来ていた小学生も高校を卒業する年齢になっているやね。「希望に満ち溢れる一歩を進んで」と願う一方で、「困ったときは戻っておいで」とも願う。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「ノゲシの葉っぱの巻」の巻

タンポポみつけたと見入る眼差し。まちがえられたと肩おとすわたし。背が高くない？と聞こえる小声。まちがえてるよと教えるわたし。葉っぱは一緒だねとふれた手のひら。そうなんですよと頷くわたし。花の色も一緒だねとつつく指さき。きれいでしょうと照れちゃうわたし。でもね、本当はちがいます。そっくりさんのわたしです。でもね、本当はうれしいの。みんなとおしゃべりできるから。

赤井まゆみ

ノゲシのこと

キク科ノゲシ科の植物の一種。多年草でよく見かける。花言葉は「旅人」「見間違っは嫌」

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

4月9日におこなわれた統一地方選挙において、大阪では府知事も大阪市長も「大阪維新の会」になり、府議会も市議会も過半数という結果になった。大阪では一党で議会を独占する状態になったと言ってもいいだろう。

このような状況で果たして議会に多様な民意が届くのか気になる場所である。例えばIRの問題などは公開されていない情報が多すぎて市民としては判断ができない。これは都構想の時も同じで、維新は自らに都合のよいところしか出さないで、勢いで進められてしまうのではないだろうか？

失敗したときには責任を取ってくれるのだろうか。ただ、政治が責任を取ったことなど国でも地方でも見たことがないのだが…。今後の大阪の政治に不安を覚える。

い湯かげん

維新体制でも市民力を高め大阪を良くしよう

この拙文は4月10日、統一地方選投票日の翌日に書いた。結果は維新の完勝。横山、吉村、どちらも40代、府会も大阪市会も維新単独過半数という前代未聞の政治状況となった。

今回の選挙の注目点は、政策の賛否と選挙結果がズレたこと。IRカジノの賛否は拮抗したが、反対の相対も維新に投票した。各論に異論はあっても維新の改革総体には賛成した。もっと重要な点は、反対派に維新の政策を変えさせる力なし、と有権者に見放されたこと。

前号で、維新の「教育の競争化」には危惧があり、保健所の縮小統廃合はコロナ対策に悪影響を与えた、維新の福祉や人権への熱は下がって

きた、都市公園の民営化には半分賛成、半分反対だ、と述べた。ボクは、政策への疑問を選挙後も問い直していくのが政治参加だと思っので、気持ちを切り替えて、横山市長や吉村知事に向き合っていきたい。些細なことだが、開票当日「民意を得た」と吉村知事は語り、横山市長は「丁寧に説明していく」と微妙に違った。

さて、民設置民運営の「にしなり隣保館ゆくとあい」。国の制度には隣保事業があるのに、大阪市ではいわずに「認可外隣保事業」のまま。また、教育の無償化などでは、所得制限廃止で維新改革は幕引きのように見える。しかしそれだけでは困難を抱えた市民は制度にアクセスできず、画餅と化す。そのアクセスを

担うのが隣保館や地域の福祉力、市民活動との連携だと提案し続けてきた。

地域で創設した社会福祉法人は地域の町会などとの協力関係を進め、いまや大阪の福祉を支える大部隊だが、人材難に苦しんでいる。その克服は自助努力だけでは難しく、国の制度の改革と自治体の積極的

社会投資が必要だ。

株式会社ナイスも150人ほどの社員を抱え、その主力は公園管理や就労支援など府や市が発注する公契約で働いている。かつては区役所の清掃などの業務は価格だけで入札が行われていたし、特定の自治体出資法人への特命随意契約も多過ぎた。それが維新改革もあって改善され、松井知事時代には大阪府ハートフル条例が制定され、価格競争ではなく障がい者雇用などを加味した総合評価入札が定着してきた。おかげで障がい者や生活困窮者の就労支援にも役立ち、「社会的企業」も力を発揮できた。

ところがいつの間にか人材派遣などの民間企業への「寡占的な競争

入札」だけが増えて、NPOや市民企業などの受託はほとんど増えない。これでは大阪の都市力は育たないし、格差も拡大してしまふ。「反対派に政策を変えさせる熱と力が足りなかった」という総括は、政党や政治家だけのことではない。部落解放運動は人権政策の主力だし、NPOなど行政では手が届かない市民支援を長年担ってきた非営利組織もある。ナイスも自治体サービスの担い手である。そうした市民力が、この選挙では「頼りない」と評されたのだと反省する。維新の支持/不支持よりも先に、自らを磨き直し、市民とのつながりを強めたい。それが政治参加、自治を担うことだと思っからだ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[山村裕太] 健康診断を受けました。脂質異常症を治療の結果。職場の人に「タバコが原因です。」の一言に「脂質とタバコ関係ないでしょ。」と反論。調べてみると無関係ではないよう。すいませんでした。



[若松司] 子どもの頃に活躍していた大人たちの訃報に遭うことが多くなっている。YMOのメンバーのうちの二人もたてつづけに他界された。時代が変わっていく。



地域の縁を心でつなぐ

心の時間

「先日亡くなった兄の親族を探していた徳島の役場から電話がありました。兄とは何十年も会ってなかったので遺体の引き取りを拒否すると、遺骨をどうしたいか尋ねてきます。どうしたら良いですか？」と電話がありました。私は「兄さんに恩はなくとも両親への供養と思ってご両親と同じお墓に納めてはいいかがですか。」と答えました。

数日後「午前中にお骨が届くので、昼から持って行ってもいいですか？」と電話。「朝から徳島まで大変ですね。」と「^{ちやうど}労う」と午前指定の宅急便で届けてくれるから大丈夫です。たしか大手業者は遺骨の配送を禁止していたはずなので聞いたですと「ゆうパックなら大丈夫。本当に、その日の午後、梱包されたままの遺骨を持って来られました。

時代や場所によって常識は変わるものですが、「今の時代」に容認されることであっても、せめて「何か変えたい」という感覚は残しておきたい。最近、河島英五さんの歌を口ずさむようになりました——人の心を見つめつつける時代遅れの男になりたい。

松向寺 通法

ココドコ

ココはどこ？
わたしはぜんぜん？
編纂部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

建物の屋上に木が見えます。この木は屋上に生えているのか、はたまた地面から生えているのか？ちなみにこの建物は3階建てなので、地面から生えているならかなりの高さです。ココがドコだか答えを知りたい人は、ゆ〜とあいの受付までお問い合わせください！

旭3丁目5-39あたり、松之宮小学校の北側の道（旭北通）でした！小学校沿いの道なので、こんな楽しい仕掛けになっているんでしょうね。



2023年3月撮影

ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび5月号(vol.195)
発行日:2023年5月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1150
E-mail:info@nice.ne.jp
url:https://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、田岡秀朋、西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太(あるいはお願)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

(株)ナイス
ホームページ

